

4 中学校の指導例（1）

- ◆ **主題名** 寛容の心 **指導内容** B [相互理解、寛容]
資料名 「和」の心 (王寺町郷土資料⑦ 王寺町教育委員会)

◆ **ねらい**

十七条憲法に関する記述を基に、議論し合いよりよい考えや新しい考えをつくり出すための姿勢や心構えについて話し合うことを通して、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって他から謙虚に学び、自らを高めようとする態度を育てる。

◆ **展開のあらまし**

○主な発問 ・ 予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
<p>○ 筆者が「和」の心に込められていると考えている「もう少し違った意味」とはどんな意味でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと自分の意見を言う。 ・相手の意見を聞く。 ・意見が異なっているときなど、互いに納得がいくまで話し合う。 	<p>◆ 第一条の「問題を話し合う」、第十七条の「皆と互いに是非を検証し合う」等の記述に着目し、こうした議論のために必要な姿勢や態度について、これまでの体験等も踏まえて考えることができるようにしたい。</p>	
<p>○ 王寺町が「和の鐘」の託したのは、どんな町にしていきたいという思いや願いだと考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが仲良くできる、争いのない平和で住みよい町にしたい。 ・住民が力を合わせ、いつも美しい町にしていきたい。 ・大人も子どもも安らぎ、笑顔でいられる町にしたい。 	<p>◆ 町民憲章の記述や「和の日」が定められた経緯などを基に自由に話し合い、王寺町の目指す姿について多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>◆ ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。</p>	ワークシート
<p>◎ あなたにとっての「和」の心とは、どんな心でしょう。他者と接するとき、どんな姿勢や心構えを大切にしたいと考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を言えないことがあるから、きちんと伝えられるようにする。 ・自分と考えと違う意見からも学べるよう、しっかりと聞くようにする。 ・相手が嫌な気持ちにならないような言葉や言い方を心がける。 ・先入観をもちずに話を聞き、自分と違う考えもまず認めようとして、自分とはどこが違うのかを伝える。 	<p>◆ 自分のこれまでの他者との向き合い方を改めて振り返る機会とし、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって他から謙虚に学び、自らを高めようとする態度を育てるようにする。</p>	ワークシート

※ 展開のあらましに加え、導入として教材への興味喚起や追究する課題把握ができる活動等を、終末としてさらに見方や考え方を広げ深めるような説話や学習の振り返り等を行うなど、教材やねらい、生徒の発達段階等に応じて指導を工夫したい。